

肘水

射水神社社報 平成22年1月発行

第13号



ご挨拶

射水神社宮司 松本正昭

皇紀二千六百七十年平成二十二年の初春を迎え、新年を寿ぎ賀詞を申し上げます。

昨年は畏くも天皇陛下御即位二十年を恙無くお迎えになり、国民齊しく祝奉の誠を捧げた年でありました。折しも、わが町高岡市におきましても、開町四百年を迎え、前田利長公が高岡城に入城した所縁深き九月十三日に、当社鎮座地隣の本丸跡地を中心に、十八代前田利祐氏臨席のもとに高岡市民あげての諸種に亘る催し事が執り行われ、久方ぶりに活気に満ち、歴史遺産が与えてくれる力を感じた年でありました。

しかしながら、昨今の社会状況を見ますと、政治においては政権交代しまだ不透明な状況にあり、経済においても思わしく作用せず、失業者・若者の就職難が生じている。このような社会状況で新年を迎え前途多難な様相を呈している。

どうも私ども日本人は一方に偏る性癖あるように思われる。高度成長時代には物質万能思想が横行し、物の世界にのみ明け暮れ精神的な面を見失いつつある中に、不況風が吹き荒び、その上に様々な事件を生じている。今その物の逆襲を受けているように思えてならない。もちろん物の世界を拒

むわけではないが、両者は常にはほどよく調和される必要があります。

日本人の伝統的な智慧の中にその調和があったはずです。伝統的智慧と表するにはなはだ軽々しく遺憾であるが、天照大御神が天の岩戸にお隠れになり、高天原と葦原中国は光を失い闇となりました。八百万の神々は、天岩屋戸から天照大御神にお出ました。八咫鏡は天孫降臨の際、草薙の剣と共に天照大御神の御心を伝える三種の神器として瓊瓊（に）杵（ぎの）尊（みこと）に授けられました。この三種の神器の玉は思いやり、いつくしみを意味する「仁」を示し、剣は「勇氣」を示し、鏡は「智」を示しております。歴代天皇はこの三徳を身に着けることにより、君徳を全うされ天照大御神の御心で、民の父母としての仁政をほどこしてこられたのであります。

日本は天皇様の大御心の下に戦後の荒廃から立ち直り、復興を成し得たのであります。この天皇様の大御心を拝することこそ、人倫の道を踏まえた温かい親子の関係、即

ち親は子を慈しみ、子は親を敬い尊ぶ関係、友人、師弟、上司というような、社会のあらゆる人間関係を望ましいものに育み、日本人としての心を回復することに繋がることと思う次第であります。

新春にあたりこの年が皆様にとり良き年になりますよう衷心よりご祈念申しあげ、年頭の挨拶と致します。



としやす
前田家18代前田利祐様参拝

▼彌彦神社参拝



初日は朝七時半に高岡を出発し、直江津・屋台会館にて行われている、天地人博覧会の見学。次に越後の国一宮居多神社参拝、午後には春日山城を散策し、戦国最強の武将と讃えられた上杉謙信の居城跡を訪ねました。この後地元酒の蔵を見学し、宿に向かいました。

二日目の四日は朝旅館を出発、彌彦神社に向かい、正式参拝をさせて頂いた後、

第二回奉賛会研修旅行

平成二十一年八月三日(月)から四日(火)の一泊二日にて企画いたしました。今回は、NHKの大河ドラマ『天地人』の放映に因みまして『天地人』縁の地を訪ねると共に越後の国一宮、彌彦神社様に正式参拝させて頂く事となりました。

宝物館を拝観させて頂きました。その後トリックアート作品が展示されているSOWA美術館の見学、次に田中角栄記念館を見学し、帰路につき、全員無事に高岡へ到着しました。

当神社におきましては、隔年にて奉賛会研修旅行を行いたく存じますので、また次の機会には、皆様是非ご参加下さいますようお願い致します。



▲春日山城跡

8月3日(月)

大河ドラマでおなじみ
高岡 ▶ 小杉IC ▶ 上越IC ▶ 天地人博覧会 ▶▶▶ 居多神社 ▶▶▶▶▶ 上越市内 ▶▶▶
7:30 9:45(見学) 10:30 10:45(自由参拝) 11:15 11:30(昼食) 12:30

上杉謙信の居城後 銘酒の試飲をどうぞ
▶▶▶▶▶ 春日山神社・城跡 ▶▶▶▶▶ 上越IC ▶▶▶▶▶ 三条燕IC ▶▶▶▶▶ 宝山酒造 ▶▶▶▶▶ 岩室温泉(泊)
12:45(参拝・散策) 14:00 15:45(見学) 16:10 16:15頃

8月4日(火)

トリックアートがいっぱい
旅館 ▶▶▶▶▶ 彌彦神社 ▶▶▶▶▶ SOWA美術館 ▶▶▶▶▶ 寺泊 ▶▶▶▶▶
9:00 9:30(正式参拝) 11:00 11:30(見学) 12:00 12:10(昼食) 13:30

元首相の面影を偲ぶ
▶▶▶▶▶ 田中角栄記念館 ▶▶▶▶▶ 西山IC ▶▶▶▶▶ 小杉IC ▶▶▶▶▶ 高岡
14:00(見学) 14:30 17:30頃



杜の景色

杜の景色（下半期）

6月30日 夏越大祓
7月上旬 職場安全祈願祭
7月上旬 奉納書道展
7月10日 悪王子社秋祭
8月27日 諏訪社例祭
9月16日 秋季大祭
9月22日 日吉社秋祭
11月1日～30日 七五三まつり
11月3日 明治祭
11月23日 新嘗祭
12月23日 天長祭
12月31日 師走大祓
及 除夜祭

奉納書道展

第30回射水神社奉納書道展が開催されました。

本年は30回および開町400年の記念賞を特に設けて、賑々しく執り行うことができました。

例年の課題は「射水の杜」や「玉串拝礼」など神社にまつわる語句にて出品いただいておりますが、今年に限り「開町史話」や「利長くん」など高岡市開町400年にまつわる語句を課題とすることにより、故郷の歴史や文化をアピールすることができたのではないのでしょうか。

子供たちには、いつまでもこの街に親しみをもち続けてほしいものです。



七五三のお参り

本年は開町四百年を記念して募集をした射水神社のイメージキャラクターである「ふうたん」が登場し、子供たちと楽しいひと時を過ごしておりました。

ふうたんの登場には、喜び子供が大多数でありましたが、泣き出す子もちらほら。概ねお母さんたちには好評で、みなさん「ふうたん」との記念撮影には列をなしておりました。

心に残る思い出の一つとして。願わくばこれより先も変わることのない射水神社の七五三の思い出となるよう考えております。

往古の杜頭風景

本年、かつて射水神社境内に能舞台があったころの貴重な資料を金森弘子様よりご恵贈賜りました。神社といえは「祈りの場」であることは、今も昔も変わらない所でございますが、ことに忘れがちな「文化の発信地」としての役割をも、改めてご提言いただいたかのような、素晴らしい資料でございます。

当社においては、上段に記載致しました奉納書道展や、観月祭などの文化事業にさらに力を込めてまいりたいと存じます



平成二十二年 新年初祈禱のご案内

個人祈禱

一、厄年祓

本厄

四十二歳(男) 昭和四十四年生
三十三歳(女) 昭和五十三年生
二十五歳(男) 昭和六十一年生
十九歳(女) 平成四年生

前厄

四十一歳(男) 昭和四十五年生
三十二歳(女) 昭和五十四年生
二十四歳(男) 昭和六十二年生
十八歳(女) 平成五年生

後厄

四十三歳(男) 昭和四十三年生
三十四歳(女) 昭和五十二年生
二十六歳(男) 昭和六十年生
二十歳(女) 平成三年生

一、祝事(男女)

還暦 六十一歳 昭和二十五年生

古稀 七十歳 昭和十六年生

喜寿 七十七歳 昭和九年生

傘寿 八十歳 昭和六年生

米寿 八十八歳 大正十二年生

一、商売繁昌祈願

一、家内安全祈願

一、合格祈願

一、初宮詣

一、安産祈願

一、その他緒祈願

◎初穂料

五千元より志
(但し厄年祓・祝事祈禱はお酒・饅頭等お供え下さい)

※事前にご予約下さい

団体参拝

一、職場安全・

商売繁昌祈願等

◎初穂料 二万円より志
◎お供物 お酒

◆祈禱受付時間

元旦 午前0時〜午後5時／二日以降 午前9時〜午後5時
お問い合わせ 社務所 電話0766(22)3104

神前結婚式

御神恩をいただき、幸おからん事を。

平成二十一年六月奉式の方々

車 正二郎・智代
午房 洋平・由歩
森田 清志・裕子
山下 真嗣・憂菜
新井 哲志・かおり
北川 耕・祐子
金森 照・麻美
織田 和重・綾乃
宮崎 力・真希子
森田 大輔・智子
沙 信治・麻奈美
大石 昌輝・泰子

平成二十一年七月奉式の方々

牧野 慎也・真澄
中村 太輔・裕里佳
松本 欣也・かおり

平成二十一年八月奉式の方々

阿部 真二郎・昭子
浅野 憲秀・睦美
坪田 貢・真琴
高畑 卓広・貴絵
津幡 智也・陽子

平成二十一年九月奉式の方々

陸田 武志・由美子
本田 昌義・有希代
村刺 憲司・悦子
吉田 卓志・知夏子
池田 慎太郎・香名
黒川 格・加奈
柴田 暢宏・智子

平成二十一年十月奉式の方々

松永 浩司・敬子
沙 邦宏・英恵
宮崎 真・陽子
川崎 治・智恵子
狩野 峻介・絵美
山岸 大輔・洋子
南 正樹・薫

平成二十一年十一月奉式の方々

矢野 隆男・洋美
尺戸 大輔・智佳子
荒木 将悟・麻子
能登 貴久・文菜
朝内 文博・亨子
六渡 孝之・めぐみ

平成二十一年十二月奉式の方々

立野井 貴裕・共子
川田 圭一・有香子
余川 祥司・美紗子
茂木 賢三・恭美子
長谷川 徹・千亜紀
窪江 武志・祥子
谷村 忍・めぐみ
山田 一徳・陽子
赤畠 勇・智子
手操 良一・亜由美
高野 寛之・優美恵
澤井 龍秀・葉月
本田 和裕・清実
市井 浩将・恵美
竹岸 延平・恵美
北川 弘・智美
村中 義一・好美
北嶋 正人・幸恵
野村 和生・薫
奥村 大助・裕子
島倉 敬介・里奈

越中の食彩

ときや 硯 雅子

富山のお餅

人間には、産まれてからその生涯を終えるまで数多くの行事がありますが、それらの行事の多くに餅菓子が使われてきました。餅菓子は日常の生活に密着していて嗜好されてきた関係上、喜びにつけ悲しみにつけ用いられてきたのです。生活の節目節目にお餅を作り、神仏に供えてその行事を祝います。

米処、富山ではおいしいお水に恵まれているので、なおさら身近に感じられるのではないのでしょうか。

皆様のご家庭ではどのようなシーンでお餅が登場していますか？お正月には欠かせないお鏡餅や雑煮用ののし餅、春にはひな祭りのお餅やさくら餅、五月は節句餅やさしわ餅等々、各月毎にその季節の行事と共に食されているはずです。

又、雑煮用の餅では地域によって形や食べ方に違いがあり、加賀文化の影響を色濃く受けている富山県では、一般的に白のし餅を切り、焼いて雑煮の中に入れるのは石川と同じようです。北陸地方でも小松から福井では関西圏と同じく丸餅を使っているようです。

お餅の中に含まれる良質のでんぷんは体内で燃えて冷えを防ぎ、体温と力の素になり、分解されて糖化される時間がご飯などよりずっと速いそうです。オリン

ピック選手の朝食にお餅が入っていたのもうなずけます。たくさん食べると胃もたれや胸やけが起こりやすいのでビタミンB1の多く含まれる大根や生野菜と一緒に食べると良いと言われています。

「富山の餅は最高!!」と言われるほど「新大正の餅」はねばりがありおいしいので、贈り物や手みやげとして喜ばれているのです。

神仏にお供えするお餅や紅白の餅まきなどは受け継いで行きたがい行事の一つです。また、おすそ分けがあれば調理しておいしく頂きたいものです。

白餅などは一口大に切り、油揚げの中に入れて巾着にしたり、ホットプレートの上で好きなものをトッピングしてピザ餅としても人気があります。固くなった餅は油で揚げてお醤油をかけてもおいしく食べられます。

昔から保存食として重宝されてきたお餅。先人達の知恵を受けついで、更においしい食べ方を発見してみませんか？



鏡餅

『新日本大歳時記』より抜粋

神道

いろは

参拝作法の起源について教えてください。

私たちが人に対しておじぎをするときは、普通は一度だけですが、神様を拝むときには「二拝二拍手一拝」の作法が用いられます。

この作法は、我が国の伝統的な作法である「兩段再拝」に基づくものです。「兩段再拝」とは再拝（二度おじぎをする）を二回おこなうことをいいます。実際の作法では、二拝の後に拍手（はくしゅ・かしわで）または祝詞（のりと）奏上をおこない、再び二拝をおこなう場合もあります。

拍手については、古くから我が国独自の拝礼作法として、神様や貴人を敬い拝むときに用いられました。平安時代、大陸との交流による影響で、宮中ではこの作法をおこなわなくなり、ただ二拝のみをするようになったことが文献に見えます。しかし、神様を拝む際には変わらず拍手が用いられてきました。

その後、この兩段再拝の作法も各流派や神社によって多少の違いを生じましたが、明治八年に編ま

れた「神社祭式」に「再拝拍手」という形が制定されこれを基本に「二拝二拍手一拝」という参拝作法が慣例化されました。

神社によっては、今日でも一社の故実により異なった作法をおこなっているところもあり、伊勢の神宮の神職がおこなう八度拝や出雲大社の四拍手などを例として挙げる事ができます。

参拝の作法「二拝二拍手一拝」

- ① 神前に進み姿勢を正す。
- ② 二回深くおじぎをします。
- ③ 肩幅程度に両手を開き、二回拍手をします。
- ④ もう一度おじぎをします。



『神道いろは』より抜粋

『ふるさと』

射水神社

⑬ 二上山の城『守山城』 (その2)

加賀藩二代藩主前田利長は天正十三年より慶長二年(一五九七)に富山城に移るまでの約十三年間、守山城に居城し、城下町の形成に力を注いだ。城下町は現在の守護町辺から海老坂地区にかけて営まれ、今も材木町・紺屋町・鉄砲町・



守山城本丸跡より氷見方面を望む

柳町・屋敷町などの古い地名が残っている。文禄五年(一五九六)には檜物(曲げ物)座や天秤(両替商い)座があり、慶長三年には商い舟もあつたことも史料に見える。城下町の最盛期には、宗教的色彩が濃く各宗派の寺院が四十か寺以上もあり、文禄四年(一五九五)、利長に新川郡が加封された後の守山は、名実ともに越中国全域の首都であつた。

慶長二年(一五九七)十月、利長は富山に城を築いて守山城を去り、以後、前田対馬守長種が城代となつた。利長が居城を富山に移した理由としては、越中四郡支配に富山は守山よりも好位置にあり、また、天険に頼る中世的守山城は、近世の戦闘様式にとつても、また居城としても適切でなかつたことが考えられる。

前田氏の守山在城時代の北陸道は、今石動から小矢部川左岸の山沿い道をとおり、佐加野―守山町―二上渡り―古定塚―三女子―二口―水戸田へ貫けるルート、つまり二上山麓の守山城下を経由したが、利長の富山移城後は再び中世以来の今石動―木舟―中田―串



高岡市街地を望む

田―水戸田のルートに戻つた。しかし、守山を通るルートは重視され、慶長六年九月、前田長種は二上渡守船頭中に新造船を与え、渡船料として、人一名につき米三合、馬一疋につき米五合の取立てを厳命している。

守山城下一帯は経済・交通ひいては軍事上の重要性が認められるのも関わらず、利長の富山移城の後、城下の寺院や商工業者は続々富山に引き移り、守山城や城下町は急速に廃れて、守山城も程なく廃城となつた。

編集後記

本年の高岡市開町四百年の記念事業もひと段落したようです。当社におきましても古城公園という立地を生かし、盛り上げに役かえたのではないでしようか。さて、十一月初旬、古代史最大の謎とされる「邪馬台国論争」に動きがありました。奈良県にある纏向遺跡にて、3世紀前半といわれる建物跡が発見され「すわ!卑弥呼の宮殿か?」と物議をかもしました。

従前から当地にある箸墓古墳についても畿内説論者を中心に「卑弥呼の墓では?」との仮説が唱えられておりましたが、今回の発見はそれを傍証する云々。

しかし、かつて纏向遺跡近辺の遺跡は乱暴に年代特定を行うことは慎むべきではありますが、概ね4世紀前後の頃と推定されていただけに、問題は決して簡単ではないと想像します。

いずれにせよ「邪馬台国論争」は単なるロマンの域を脱し、所在地いかによつて統一的な日本国家の成立時期を決める重要問題であります。

年代特定に揺れのある遺物を中心に論証される研究者の方々には、特に慎重なる研究姿勢を切望いたします。

発行 射水神社

発行所 〒931-0044 高岡市古城一

TEL (0766) 221-1304

FAX (0766) 221-3715

印刷所 キクラ印刷株式会社

参集殿通信

参進の儀

古城の杜に響く雅楽の音

心静かに歩む神前結婚式の始まり



—うつくしの杜ブライダルフェアのご案内—

Utsukushi no mori Marriage story



ピラミッドシャンデリアの光に包まれて!

平成21年10月挙式 矢野様ご夫妻

うつくしの杜、結婚式場

射水神社

〒933-0044 高岡市古城1番1号(高岡古城公園内)

射水フェスタ 2010

平成22年2月21日(日)

10:00~18:00

- ・模擬挙式・模擬披露宴
- ・ブライダルケーキ試食
- ・会場コーディネート展示
- ・料理・引出物展示
- ・和装・洋装衣裳展示
- ・ネイルアート体験
- ・ブライダル相談会

うつくしの杜 春フェスタ

平成22年4月4日(日)

10:00~17:00

- ・模擬挙式
- ・結びのセレモニー・ビデオレター
- ・会場コーディネート・引出物展示
- ・婚礼料理試食会
- ・衣装・婚礼アイテム展示・相談会

お問合せ (0766) 22-0808

U R L ■ <http://www.imizujinja.or.jp>

Eメール ■ jinja-k@mbs.sphere.ne.jp